# サステナビリティー

トップメッセージ	008
IHIグループの重要課題	009
サステナビリティ・マネジメント	011

# トップメッセージ

# 「自然と技術が調和する社会を創る」 IHIグループ一丸となって ESG経営に取り組む



IHIグループは、「技術をもって社会の発展に貢献する」「人材こそが最大かつ唯一の財産である」を経営理念とし、1853年の創業以来、その時代時代における社会課題の解決に貢献してきました。近年は、不安定さが常態化する社会環境の中で、企業にも、気候変動や資源枯渇への対策、人権の尊重など多くの社会課題の解決が求められていると感じています。

私たちは、このような課題解決を経営の機軸としても捉えていくべきと考え、2021年11月に「IHIグループのESG経営」を発表しました。そこでは、地球環境とそこに暮らす人びとが持続可能であるために、未来世代も含めたあらゆる人びとが、豊かに安心して暮らすことができる社会を創る―「自然と技術が調和する社会を創る」をありたい姿と定めました。

ありたい姿の実現に向けて、とりわけ重要視しているのは気候変動への対策です。2021年には「IHIカーボンニュートラル2050」を掲げ、事業活動や提供する製品・サービスを通じて、2050年までにカーボンニュートラルを実現することを目指しています。IHIグループは世界に先駆けて、燃焼させても $CO_2$ を排出しないアンモニアを燃料として利用する技術の開発に取り組んできました。この技術を早期に確立するとともに、アンモニアの製造から利活用までのバリューチェーンの構築を目指していきます。

また、社会課題に取り組む上では、人権の尊重、それに 向けて特にDE&I(ダイバーシティ、エクイティ&インクルー ジョン) の推進が欠かせません。IHIグループでは、2024 年を「DE&I元年」と定めました。さまざまな取り組みを通 じてDE&Iを推進し、これをグループの文化にまで高める ことに挑戦しています。お互いを認め、活かし合い、挑戦 する機会が公平に提供されていることで、自由に発想し、 声の出せる組織風土を築いていきたいと考えています。 IHIグループでは、2019年に起こった民間航空機エンジ ン整備事業における不適切事案を受けて、グループ全従 業員への研修、職場対話の実施など、コンプライアンス体 制の強化を進めてきました。一方で、2024年4月にはIHI グループ内で、お客さまにお渡しする製品のデータに不 適切な修正が行われていたことを公表しました。IHIグ ループでは過去にも同じような問題を起こし、その是正 に取り組んできた中で、ステークホルダーの方々の信頼 を裏切るような行為が継続されていたことに対し慙愧に 堪えません。再発防止の徹底に全力を注いでいきます。 これからもさまざまなステークホルダーの皆さまとの対 話を進め、将来ありたい姿である「自然と技術が調和する 社会を創る」ことを目指し、引き続きIHIグループー丸と なって、ESG経営に取り組んでまいります。

800

# IHIグループの重要課題

#### 重要課題の特定

IHIグループは、持続可能な社会を実現し企業として持続的に成長するために、優先的に取り組むべきことを重要課題として特定しています。

2020年に策定した「プロジェクトChange」の中で、近未来に創り上げたい社会を「自然と技術が調和する社会」とし、IHIグループが取り組むべき社会課題や提供できる価値を明確にしま した。そして、取り組むべき社会課題とした、脱CO2、防災・減災、暮らしの豊かさの実現のために「重要なことは何か」という観点で、重要課題を特定し直しました。

その後、2021年11月に発表した「IHIグループのESG経営」では、地球規模の課題である気候変動への対策に取り組むこと、事業を通じて関わる人びとの人権を尊重すること、価値創造 の原動力となる多様な人財が活躍すること、そして誠実な企業経営によってステークホルダーからの信頼を獲得することを、優先的に取り組むべき特に重要な課題として特定しました。

#### web 中期経営計画

#### ●重要課題の特定プロセス

課題の抽出

国内外で認識されている

課題を網羅的に抽出しま

・サステナビリティ情報

開示のガイドライン

(GRI Standardsなど)

## 将来のありたい姿から重要課題を特定

Step 1

Step 2



Step 3

#### 方針との 整合性確認

Step 1で抽出した課題と 社内方針などとの整合性 を確認しました。

・「グループ経営方針 2019 「プロジェクト Change

- ・IHIグループ基本行動指 針など社内の各種方針
- ・グループリスク情報

# 重要課題の特定

Step 1およびStep 2を踏ま えて、16の重要課題を特定 しました。

# 重要課題

E P.15	<ul><li>● 気候変動への対策</li></ul>
<b>S</b> <u>P.41</u>	● 多様な人財の活躍       P.42         ● 働き方改革、業務プロセスの改革       P.62         ● 労働安全衛生水準の向上       P.64         ● 人権の尊重       P.73         ● サプライチェーン・マネジメントの強化       P.80         ● 地域社会との共存共栄       P.84         ● お客さまとの関係強化       P.87
<b>G</b> P.90	<ul> <li>□コーポレート・ガバナンスの強化</li></ul>

#### 「IHIグループのESG経営」に おいて特定した特に重要な課題

009

気候変動への対策

人権の尊重

多様な人財の活躍

ステークホルダーからの 信頼の獲得

SDGs

した。

・ESG評価機関の評価基準 (FTSE、MSCI、DISI)

· Society 5.0 (経団連)

 基本情報
 サステナビリティ
 環境負荷の低減
 豊かな社会の実現
 誠実な企業経営
 パフォーマンスデータ
 010

# IHIグループの重要課題

# **|重要課題における目標と実績**

	重	要課題	目指す姿	指標と目標	2023年度の主な実績	関連するSDGs	
	気候変動への対策 地球環境の保全 資源循環型社会の形成			<ul> <li>■ 2050年 パリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現</li> <li>■ 2030年度 GHG排出量(Scope1、2) 2019年度から半減</li> <li>■ 2025年度 GHG排出量(Scope1、2) 12,000t-CO₂e削減</li> <li>■ 2025年度 エネルギー消費原単位 2022年度比で3%削減</li> </ul>	● GHG排出量(Scope1、2) 211,970t-CO₂e、3,783t-CO₂e削減(2022年度比) ● エネルギー消費原単位 特別要因≅を除かない場合 17.6TJ/百億円、3.5%増加(2022年度比) 特別要因≅1を除いた場合 15.6TJ/百億円、8.2%減少(2022年度比) ※1 PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムの影響など	9 : 11 : 13 : 13 : 15 : 15 : 15 : 15 : 15	
環境			● 社会システム全体の環境負荷を低減する	<ul><li>環境事故発生件数 ゼロ</li><li>環境法令違反件数 ゼロ</li></ul>	<ul><li>環境事放発生件数 ゼロ</li><li>環境法令違反件数 ゼロ</li></ul>		
				<ul> <li>■ 2025年度 廃棄物排出量 2022年度比で3%以上削減</li> <li>■ 2025年度 取水量 2022年度比で3%以上削減</li> <li>■ 2025年度 リサイクル率の定義の見直し、 最終処分量(全廃棄物の90wt%以上)把握</li> </ul>	● 廃棄物排出量 25,410t、10.3%増加(2022年度比) <sup>±2</sup> ●取水量 5,844千㎡、44.8%増加(2022年度比) <sup>±2</sup> ●環境情報を収集している73拠点において水ストレス地域調査を実施、 High Risk以上にあたる地域6拠点(8.2%)を特定 ● リサイクル率の定義見直し、確定 ※2 海外拠点における一時的な生産プロセスの変更により増加		
	多様な人財の活躍		●従業員が共通の価値観のもとで、持てる能力を最大限に発揮する ● 多様性の力を価値創造につなげる	■ 2030年度	● 役員に占める女性比率 18% ● 女性管理職比率 5.3% ● 女性採用比率(大卒) 19.8% ● 障がい者雇用率 2.62% ● 従業員エンゲージメント 54ポイント		
	働き方改革、業務プロセスの改革 		●組織全体の生産性を高める ●共に働く全ての人びとが安全で健康に働くことが	● 2023年度 障がい者雇用率 2.6% ● 2023年度 安全衛生度数率	<ul><li>● 社外での兼業・社内での副業の登録者数 延べ約140名</li><li>● 労働災害(不休災害以上)の発生件数(国内) 54件</li></ul>	4 ROBLESTE 5 SUCCESSES	
社会	人権の尊重		できる職場環境を実現する  ■ あらゆる人びとに対する人権尊重の責任を積極的に果たす	(工場部門)0.6未満 (建設部門)1.2未満  ■ 人権インパクトアセスメントを3年間でIHIグループ会社約160社 実施	<ul><li>● 安全衛生度数率 (工場部門)0.95 (建設部門)2.10</li><li>● 人権インパクトアセスメント実施の累積数 96社(うち2023年度は37社)</li><li>● [IHI グループ人権方針実行ガイドライン]を日本語・英語・中国語の3カ国語で作成・展開</li></ul>	8 :::: 12 :::: 1	
	サプライチェーン・マネジメントの強化		<ul><li>持続可能なサプライチェーンを構築する</li></ul>	-	● グリーバンス(教済)メカニズムの整備(2024年4月1日より)	16 TRANSITE 17 (MT-10-27)	
	地域社会との共存共栄		<ul><li>●住み良い豊かな地球づくりに役立つとともに、グ ループの価値向上につながる社会貢献活動</li></ul>	-	●社会貢献活動の支出総額 532百万円(前年度比43百万円増)		
	お客さまとの関係強化		<ul><li>開発、提供する製品・サービスの安全性に十分配慮するとともに、お客さまおよびユーザの満足を得られているかを確認し、絶えず製品・サービスの水準を高める</li></ul>	-	● 国内事業所・工場のQMS認証取得率 ISO9001 90.6%、それ以外の規格を含む取得率 96.2%		
		コーポレート・ ガバナンスの強化	<ul><li>株主をはじめとするステークホルダーの皆さまから、長期にわたって信頼され、ご愛顧いただく</li></ul>	_	<ul><li>● 役員報酬の業績連動賞与(年次インセンティブ)において、ESG経営の推進を目的 とした「ESG指標」の導入トライアル実施(2024年度より本格導入)</li></ul>		
		コンプライアンスの徹底	<ul><li>○法令順守にとどまらず、変化する社会の価値観や社 会からの要請を的確に把握し、社会の期待に応える</li></ul>	-	● コンプライアンス・ホットライン通報件数 314件		
		リスク管理の徹底	<ul><li>事業の継続、役員ならびに従業員とその家族の安全確保、経営資源の保全、社会的信用の確保</li></ul>	-	<ul><li>競争法への違反件数 0件</li><li>贈賄禁止法 0件</li></ul>	* ************************************	
ガバナンス	ステークホルダー からの信頼の獲得	イノベーション・ マネジメント	<ul><li>ものづくり技術を中核とするエンジニアリングカによって、社会課題解決につながるソリューションを提供し続ける</li><li>知的財産を、社会課題の解決とお客さまの価値向上に資するように事業活動に活用する</li></ul>	-	<ul><li>●研究開発費用 393億円</li><li>●特許取得件数 564件</li><li>●特許保有件数 8,172件(国内 4,094件、海外 4,078件)</li></ul>	17 attach	
		情報セキュリティの強化	<ul><li>お客さまやお取引先の機密情報、会社の経営情報 や技術情報などを確実に保護する</li></ul>	-	<ul><li>●情報セキュリティ対策レベル評価 3.8(5点満点)</li></ul>		
		適時・適切な情報開示	<ul><li>経営の方向性と主要な業務について、誠実に説明 責任を果たす</li></ul>	-	<ul><li>・投資家との対話 361社(国内投資家 99社、海外投資家 262社)</li><li>・債券投資家との対話 30社(投資家13社、銀行7社、金融機関6社、証券会社4社)</li></ul>		

### 考え方

IHIグループは、持続可能な社会を実現し、企業として持続的に成長するために、ESGを価値観の軸に置いた社会・環境に配慮した誠実な経営「ESG経営」を行っています。

#### IHIグループのESG経営

IHIグループは、地球環境とそこに暮らす人びとが持続可能であるために、自然の脅威から人びとを守り、安心・安全で豊かに暮らすことができる社会―自然と技術が調和する社会―を創ることを目指します。

事業を通じて、さまざまな社会課題に取り組み、社会価値を創出するとともに、企業価値を向上していきます。
IHIグループが考えるESG経営の詳細については、2021年度に発行した「IHI ESG STORYBOOK」に示しています。

#### web IHI ESG STORYBOOK

#### ●IHIグループのESG経営



経営理念 「技術をもって社会の発展に貢献する」「人材こそが最大かつ唯一の財産である」

# ガバナンス

#### ▋サステナビリティ推進体制

IHIグループは、持続可能な社会を実現するために、環境と社会に対する貢献と責任、それらを実現するためのガバナンスに関して、明確な価値観を示した「ESG経営」を行う必要があると考えています。この「ESG経営」の基本方針や具体的施策を検討するとともに、実施状況を評価・

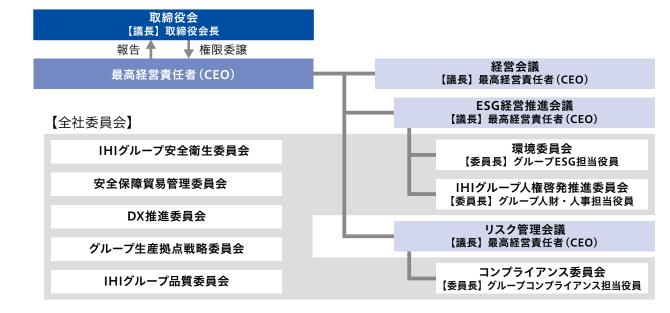
改善することを目的として、最高経営責任者(CEO)を議長とするESG経営推進会議を設置しています。

011

また、環境、人権やコンプライアンスなど、全社にまたがる課題については、全社委員会を設置しています。各委員会で審議・決定した方針が各部門の具体的な施策に反映される体制にしています。

ESG経営の重要な意思決定に関わる事項については、取締 役会に適宜報告し、全社的なマネジメントを実施しています。

#### ●サステナビリティ推進体制図



#### ■ESG経営推進会議

議長	最高経営責任者		
出席者	取締役、執行役員、統括本部長、本社本部長、本社部長		
事務局	総務部		
2023年度の開催回数	2回		

# 取り組み

#### ステークホルダーとの対話

IHIグループは、企業活動を継続する上で影響の大きい、お客さま、お取引先、株主・投資家、行政、地域社会、従業員、NPO・NGOを主要なステークホルダーと捉えています。

その考えのもと、ステークホルダーとの対話をさまざまな方法で実施しています。対話のためのツールとして「統合報告書」や「Sustainability Data Book」を発行しています。

なお、重要と考えられる対話内容については経営会議や取締役会に報告し、経営戦略に反映しています。

#### ●2023年度のステークホルダーとの主な対話実績(サマリー)

ステークホルダー	対話の主な目的	2023年度に実施した対話の一例	頻度	参照
お客さま	<ul><li>社会とお客さまの課題解決への 貢献</li></ul>	・日頃の営業活動 ・顧客満足度調査の実施	適時	P.87 お客さまとの関係強化
	●製品安全	・製品安全情報の提供	随時	
お取引先	●公平・公正な取引	・「IHIグループ調達基本方針」の周知	都度	P.80 サプライチェーン・
お択り元	●お取引先との相互繁栄	・CSR調達モニタリング	適時	マネジメントの強化
		・株主総会の開催	年1回	
株主・投資家	● 適時・適切な情報開示 株主・投資家 ● 信頼関係の強化	・決算説明会、テレフォン・カンファレンスの開催	年4回	web 株主・投資家情報
●企業価値の向上	IM DOLLAR TO SECTO	・個別ミーティングの実施 ・事業領域説明会の実施	随時	100 W工 及员外间报
行政	●官民連携	・政策審議会への参加 ・官民共同開発・プロジェクト参画	適時	P.116 イノベーション・マネジメント
地域社会	<ul><li>社会の一員であることの自覚</li><li>社会課題の解決への貢献</li></ul>	・地域社会向けイベントの開催 ・出前授業の実施	適時	P.84 地域社会との共存共栄
<b>○最も重</b>	●最も重要な経営資源である人	・従業員意識調査の実施	年1回	P.42 多様な人財の活躍
従業員	財の育成・確保	・コンプライアンス・ホットライン	都度	P.104 コンプライアンスの徹底
NPO · NGO	● 事業機会につながる社会課題 の深堀	・人権に対する考え方の表明 ・多国籍企業行動指針などの改訂版の解説	都度	-

#### 国連機関との対話

IHIグループは2023年度、2022年度に対話した国連開発 計画との対話を再度実施しました。

この対話ではOECD多国籍企業行動指針やCSDDD(EUの環境・人権デュー・ディリジェンス指令)案の気候変動規程の解説がなされるとともに、今後の対話のテーマについても意見交換を行いました。

国連開発計画からは、国連を含む国際機関やイニシアチブに積極的に参加し日本企業としてリードすること、NGOなどとの対話・エンゲージメントを継続的・恒常的に実施すること、「どこが足りないか」という視点で議論すること、企業利益と対立するかもしれない社会からの指摘に対しても正面から向き合うことなどが要望されました。

これらの要望に真摯に耳を傾け、今後も引き続きステークホルダーとの対話を実施してまいります。

#### ●国連機関との対話実績(2023年度)

	UNDP		
対話テーマ OECD多国籍企業行動指針、CSDDD案の気候変動規程の 解説			
対話の相手	国連開発計画 大司 雄介 氏、佐藤 暁子 氏		
IHI参加者	グループESG担当役員、官民連携部長		

#### 株主・投資家との対話

#### 株主・投資家とのコミュニケーションの考え方

IHIグループは、株主・投資家の皆さまへの適時・適切な会社情報の開示が健全な金融商品市場の根幹をなすとの認識のもと、株主・投資家の皆さまと信頼関係の強化を図るため、コミュニケーションの機会を積極的に設けています。また、株式投資家に加え、債券投資家との対話も積極的に行っています。

さらに国内だけではなく海外投資家の皆さまにもIHIグループの事業活動への理解を深めていただけるよう、積極的なコミュニケーション活動を行っています。

2023年度は経営層が北米・欧州・アジアを訪れ、現地の機関投資家の皆さまとの対話を実現しました。

#### 適時・適切な情報開示

IHIグループは、各種開示資料の充実を図り、その内容をインターネットで配信するなど、積極的で公平な開示に努めています。

情報開示については、透明性の高い経営の全社的推進を 基本理念に、資本市場関係者に対して、経営または業務 に関する重要情報を、常に株主・投資家の視点に立ち、迅 速・正確・継続的・公平に開示しています。そして、経営 の方向性と主要な業務について、誠実に説明責任を果た すことを基本方針としています。

#### ●株主・投資家との主な対話実績(2023年度)

投資家		361社(国内投資家99社、海外投資家262社) グロース、バリューなどのアクティブ投資家を中心に、幅広い投資スタイルの国内外機関投資家のアナリスト、 ポートフォリオマネージャー、ESG担当者、議決権行使担当者など
	CEO	決算説明会 2回 対話 23回
IHI対応者	グループ財務担当役員	決算説明会 4回 セルサイドアナリストとの対話 37回 国内・海外機関投資家との対話 91回
	IR担当者	国内・海外機関投資家との対話 226回

013

#### ●債券投資家との対話実績(2023年度)

投資家	30社(投資家13社、銀行7社、金融機関6社、証券会社4社)	
主な対応者	副社長執行役員、グループESG担当役員、グループ財務担当役員、財務部など	
主なテーマ	財務戦略、ESG戦略、人的資本に関する取り組みなど	

#### ●株主・投資家との主な対話テーマ(2023年度)

分類	対話の主なテーマ	参照
全般	<ul><li>事業ポートフォリオに関する議論の状況</li><li>ライフサイクルビジネスの今後の拡大の見通し</li><li>PW1100G-JMエンジンの追加検査プログラムの影響</li><li>燃料アンモニアバリューチェーン事業の収益化の見通し</li><li>防衛事業の今後の拡大の見通し</li></ul>	P.4 中期経営計画
E	●「IHIカーボンニュートラル2050」の実現に向けた取り組み ● Scope3の開示に向けた検討状況 ● GHG排出量削減に関する中間目標の開示状況 ● 気候変動対策におけるIHIグループの強みや独自性	<u>P.21</u> 気候変動への対策
	●「グループ人財戦略」における具体的な取り組み内容 ●「グループ人財戦略」のKPI ●人的資本に関する投資の規模	<u>P.42</u> 多様な人財の活躍
S	<ul><li>●従業員意識調査結果の活用状況</li><li>●サプライチェーン上で想定される人権リスク</li></ul>	P.42       多様な人財の活躍         P.73       人権の尊重         P.80       サプライチェーン・マネジメントの強化
G	<ul><li>取締役会の実効性</li><li>社外取締役の活動状況</li><li>取締役会の構成</li><li>マテリアリティ特定の背景</li><li>ESGやサステナビリティの取締役会での議論の状況</li></ul>	P.91 コーポレート・ガバナンスの強化

■国際的イニシアチブの支持 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

#### P.21 気候変動への対策

#### 国連グローバル・コンパクト

IHIグループは、健全なグローバル社会を築くためのイニシアチブである「国連グローバル・コンパクト」に署名し、2022年2月6日付で参加企業として登録されました。

国連グローバル・コンパクトが定める4分野(人権・労働・環境・腐敗防止)に関する10原則は、IHIグループの経営理念およびESG経営に合致しています。IHIグループは、これら10原則に賛同し、その実現に取り組んでいます。

#### **WE SUPPORT**



#### 従業員への教育

IHIグループは、IHIグループで働く一人一人が、サステナビリティ・ESGとは何かを理解し、IHIグループの方針や活動と結び付けて考える機会とすることを目的として、IHIグループ(IHIおよび国内関係会社)の役員、従業員、派遣従業員を対象としたe-ラーニング「サステナビリティ・ESG講座」を実施しました。

#### ●サステナビリティ・ESG講座の受講者数

(対象:IHIおよび国内関係会社)

項目	2023年度
受講者数	24,185名
修了率*	83.7%

※修了率:修了者数/受講対象者数